



小栗キャップの News Letter

税理士法人オグリ 代表社員・税理士 小栗 悟

岐阜本部 〒500-8847 岐阜県岐阜市金宝町1-3 岐阜第一生命ビル 4F

TEL : 058-264-8858 FAX : 058-264-8708

名古屋本部 〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目16-15 名古屋フコク生命ビル 6F

TEL : 052-222-1600 FAX : 052-222-1611

Email : info@otc-oguri.com <http://www.otc-oguri.com>

2018年6月13日(水)

経理処理

複雑な取引は原則へ

経理処理の大原則は貸借を一致させること

本来複式簿記は資産の管理から始まりました。新たな資産が増えた場合、購入のための資産が減ったと考えます。車の購入を例にとると以下となります。

車両 100 / 預金 100

しかしそのうち商売を始めるとそうはいかなくなりました。商品の仕入れは上記の資産の購入と同じです。

商品 100 / 預金 100

売った場合が問題です。仕入れた商品を200で売った場合、以下となり貸借が合いません。

預金 200 / 商品 100

そこで考え出されたのが損益勘定です。

預金 200 / 商品 100

商品販売益 100

現在の経理処理

現在では商品の仕入れは「仕入」と言う損益勘定で処理し、売った場合は「売上」と言う損益勘定で処理しますが、元々は上記の考え方が原則です。

そこで今でも売れ残った商品は在庫として資産に計上します。

例えば2個仕入れて1個売った場合、現在の経理処理は以下となります。

仕入 200 / 預金 200

預金 200 / 売上 200

商品 100 / 期末棚卸 100

原則的な考え方では以下です。

商品 200 / 預金 200

預金 200 / 商品 100

商品販売益 100

複雑な取引は原則へ

複雑な取引はこの原則に立ち返ると間違いなく処理できます。

定価500の新車を、従来所有していた車を100で下取りしてもらい、更に50値引きしてもらい購入しました。購入にあたって諸経費が48かかりました。差引振り込んだ金額は398でした。因みに従来車の簿価は30でした。

まず明らかな事実だけを貸借に記録します。新車は50の値引きなので450、支払ったお金は398、諸経費は48、古い車の簿価は30。増えた資産は借方、減った資産は貸方です。

車両 450 / 預金 398

経費 48 / 車両 30

貸借一致が原則ですから、差額は下取り車両の売却益70ということになります。



なるほどね